

「LRTが叶える私の夢」

「LRT東口回遊線」を池袋・豊島区の「宝箱」に

加藤 貴久

私は池袋の路面電車「LRT東口回遊線」の実現を、心待ちにしている。

なぜなら、私の夢は「より快適・よりヒューマンなまち」に住み（続け）たいから。

それが豊島区であり、池袋の路面電車—LRT—が後押しすると考えているから。

さらに、なぜそう思うのか？答えは次のとおりに。

まず構想図を見て驚いた。小さな環状線であるけれど、サンシャインシティをすっぽり包むのみならず、池袋東口の主だったゾーンを囲っている。幼少より池袋にはよく連れて来てもらった・長じて出身校は豊島区内だったから池袋にも縁がある・現在は池袋の近くに10年以上住みこのゾーンを日頃から庭のようにしている私にはわかる。この「環状線」を使えば池袋の外からはいかにゾーン内のどこにでもアクセスしやすいか、また将来、ゾーン内から外へとまちづくりが広がってゆく可能性も高いか。

池袋のまちづくり構想にも共感した。そうだ、池袋が他の副都心と決定的に違うのは「ひとのまち」なのだとということ。「東口回遊線」はモノやカネではない、「ひと」がこれを使い、池袋の外に出て元気に活動し、また帰ってくる。一方、池袋のまちなかでは、この東口回遊線を通じてより「ひと」が快適にすごし、外から池袋に来る「ひと」たちも池袋・豊島区が誇る数々の文化施設にアクセスしやすくなる。そこから、「ひと」と「ひと」との交流も新たに生まれ、快適な「ひと」本位のまちが進んでいく。そのための新しいアイディアも湧き出てくる。そのような可能性を高く秘めている。

そしてLRT車両本体に眼を向ければ、「3つのE」を秘めている。

- ① 架線がなく電池で走る景観・環境両面を守るエコロジカル（Ecological）な車両
- ② 高齢者はじめ誰でも気軽に使える低床型のエコノミカル（Economical）な車両
- ③ デザイン面でも誰もが見て楽しめるエンジョイアブル（Enjoyable）な車両

池袋駅東口からグリーン大通りを手始めに静かに・緩やかな速度で池袋の中心を走る東京初のLRT。初の環状線—東口回遊線を早く見たい。そして乗ってみたい。

かつては東京の山手線内と下町を縫うように走っていた都電—ちんちん電車—は、高度経済成長に伴うモータリゼーションに駆逐され、荒川線を残すのみとなった。都電にかぎらず全国的にも縮小してしまった路面電車だが、地球環境問題が深刻化した頃から路面電車の復活も 地方都市からLRTとして見直されてきた。

歴史は振り子のように繰り返す。しかも揺れ戻すごとに洗練されて。

かつての都電—ちんちん電車—は経済・社会の成長のために、人を「もの」と同じく、とにかく多く運ぶ大事な交通手段であった。私はLRTが「21世紀のちんちん電車」だと思っているが、LRTこそは人を「ひと」として運ぶ初の移動手段といつても過言ではないと思う。このLRTが池袋のまちづくりのコンセプトと相まって、ひとに優しい・ひとを大事にする東京初の、日本初の「LRT東口回遊線」の実現を心より願う。

「LRT東口回遊線」が池袋・豊島区が誇る「宝箱」になりますように。

それが私の夢です。